

長期入院医療機関調査結果

精神障害者の長期入院に関する実態調査 事業の背景と目的

背景

国は、「入院医療中心から地域生活中心へ」という理念を掲げ、精神障害者が地域で安心して暮らせるよう、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を推進している。この取り組みの主軸として、長期入院者の地域移行支援が位置づけられている。

当区においても、精神科病院長期入院患者（2023年調査:89人）への支援は、取り組むべき課題の一つとして認識しており、その実態把握と支援体制の強化が求められている。

目的

精神科長期入院患者の地域移行に向けた、より効果的な支援方法と支援体制を検討する。

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた、地域課題を把握するための基礎資料とする。

精神科長期入院患者の実態調査報告（令和4～6年度）

第1段階：量的調査（令和4年度）

対象：ReMHRAD^{※1}（2020年度）より抽出した、文京区に元住所がある方が入院している可能性がある都内の精神科有床病院（65病院）。

方法：入院状況や退院意欲などに関するアンケート調査。
調査項目は精神保健福祉資料（630調査）の調査項目を準用。

結果：回答：53病院 該当者：48名（31病院に所在）

第2段階：質的調査（令和5～6年度）

対象：量的調査にて把握した対象者のうち、以下の条件を満たす11名（8病院）

- 1.入院期間1年以上
- 2.入院治療が不要
- 3.退院の希望あり
- 4.区の実情説明に対応可能

方法：医療機関および本人への訪問インタビュー等

結果：6名（6病院）に調査実施

※1 〈ReMHRADとは〉

厚生労働省が実施する日本の都道府県・二次医療圏・市区町村などの区分別のデータベース。以下の情報等が表示される。

- ・精神保健福祉資料における指標の状況
- ・精神科病院に入院している方の状況（現在の所在病院・元住所地の市区町村）
- ・訪問看護ステーション・障害者総合支援法の各福祉サービスの事業所（精神障害のある方向けの支援有り）の多寡
- ・各社会資源の位置情報

量的調査にて配布した調査票

文京区 長期入院患者様の状況調査票

令和4年10月1日現在、貴病院に精神科疾患で1年以上入院している患者で、文京区に住民票のある方または入院前住所が文京区の患者様について、回答をお願いします。

※直近の実績(令和4年6月30日等)の方が把握しやすい場合は、任意の直近月日現在でも構いません。

医療機関名								記載者						
住所								病床数						
連絡先番号								メールアドレス						
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
No	性別	年代	病名	生活保護 の状況	現在の 入院形態	在院期間	入院の状況	病院から 見た退院 の見通し	退院を想定 した場合の 帰宅先	退院に向けた 本人の意思	退院に対 する家族 の意向	本人の状況 SOSが出せる	本人の状況 服薬、通院が 出来る	備考 (自由記載欄)
	1 男性 2 女性	1 10代 2 20代 3 30代 4 40代 5 50代 6 60～64歳 7 65～69歳 8 70歳以上	記入式	1 生活保護 2 生活保護 ではない	1 医療保護 入院 2 任意入院 3 それ以外	令和4年10月1日 時点の入院期間	1 入院治療を 要する 2 受け入れ条件 が満たせば退院 可能 3 それ以外	1 有 2 無	1 有 2 無	1 希望有り 2 希望無し 3 不明	1 協力的 2 非協力的 3 家族不在 4 不明 ()	1 SOSを出せる 2 償還できる支援者 には出せる 3 出さないが、職員 からの後援、助言 は拒否しない 4 SOSを出せない	1 自分で出来る 2 時々忘れるが、 見守り、助言が あれば出来る 3 1人では出来ない が、見守り、同伴 があれば出来る 4 自分で出来ない	
例	1	4	統合失調症	2		3 年 4 月	2	1	1	1	3	1	2	
1						年 月								
2						年 月								
3						年 月								
4						年 月								
7						年 月								
6						年 月								
7						年 月								
8						年 月								
9						年 月								
10						年 月								

Q1 貴院には、地域移行を主に行っている職種の人、または地域移行に取り組み部署はありますか。

職種名		部署名	
-----	--	-----	--

Q2 貴院に入院している文京区の方に、当区で実施している取り組みを説明しに伺ってもよろしいですか。どちらかに○をお付けください。

可能		不可(理由)	
----	--	--------	--

Q3 訪問する場合の窓口はどちらになりますか。

部署名		担当者	
-----	--	-----	--

ご協力いただき、ありがとうございました。
令和4年10月31日(月)までに、同封の返信用封筒に
この調査票を入れて、ポストに投函してください。
切手を貼る必要はありません。

令和4～6年度 精神障害者の長期入院に関する調査結果 全体像と調査課題

1.量的調査から見える実態

- ・年代：60代以上で約65%を占める。特に70歳以上が最多であり高齢化が顕著。
- ・疾患：統合失調症が70%を占め、他は双極性感情障害や認知症などの疾患で構成されている。

2.質的調査への移行課題

人員等の制約もあり、質的調査を実施するまでに時間を要してしまった。
また、退院の可能性が高いと想定される対象者のみの質的調査となった。

令和4～6年度

精神障害者の長期入院に関する調査結果

質的調査から紐解く「入院継続」の背景とニーズ

3.質的調査から考察される入院継続の理由(6名の質的調査より)

分類	具体的な阻害要因・ニーズ
① 本人側	退院意欲・関心の乏しさ、病状の不安定さ、高齢化
② 家族側	退院への強い反対、引き取り拒否、病状への理解不足
③ 社会資源	受け入れ先（グループホーム等）の不足、地域移行支援の未整備
④ 経済面	退院後の生活費や一人暮らしの維持コストに対する強い不安

令和7年度 量的調査

目的：文京区民で、精神科医療機関に1年以上入院している全国の精神障害者長期入院者の実態を明らかにする。

対象：1.病床を有する都内の精神科病院。（95病院）
2.ReMHRAD（2023年度）から、文京区に元住所がある人が入院していると思われる東京都外の精神科有床病院（72病院）。

方法：調査票は令和4年度に使用した調査票と同様。
長期入院者の入院状況や退院意欲などに関するアンケート調査（量的調査）を実施。

調査時期：令和7年10月1日～31日

令和7年度 調査の実施状況・長期入院者の状況

【配布数・回答病院数】

	都内	都外	全体
配布数	95	72	167
回答病院数	79	70	149
回答率	83.2%	97.2%	89.2%

【入院者数】

	都内	都外	全体
入院者数	35	18	53

【都道府県別入院者数内訳】

	入院者数		入院者数
23区内	14	神奈川県	3
23区外	21	埼玉県	6
東京都内	35	千葉県	6
		栃木県	1
		茨城県	1
		静岡県	1
		東京都外合計	18

参考値（令和4年度）
 ※令和4年度調査については
 都内の病院のみが対象。

【配布数・回答病院数】

- ・ 配布数：65
- ・ 回答病院数：53
- ・ 回答率：81.5%

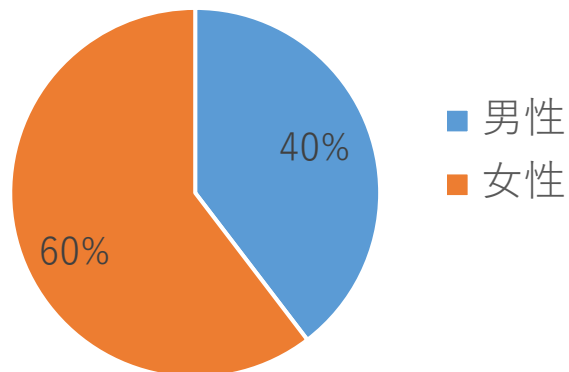
【入院者数】

- ・ 48人

- ・ 回答率は89.2%と高い回答率により精度の高い実態調査となった。
- ・ 調査対象を拡大したことで、全国の対象者を把握できた。
- ・ 長期入院者は都内のみでは減少。（48→35人）
- ・ 都外では近隣3県へ8割以上の入院者が存在。

長期入院者の属性(対象者53名)

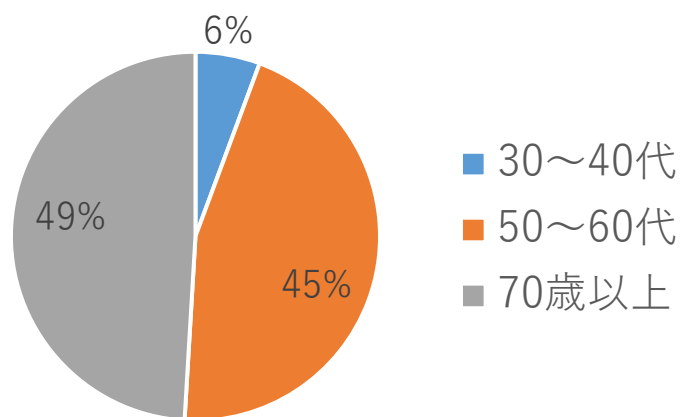
性別



病名



年代



年代

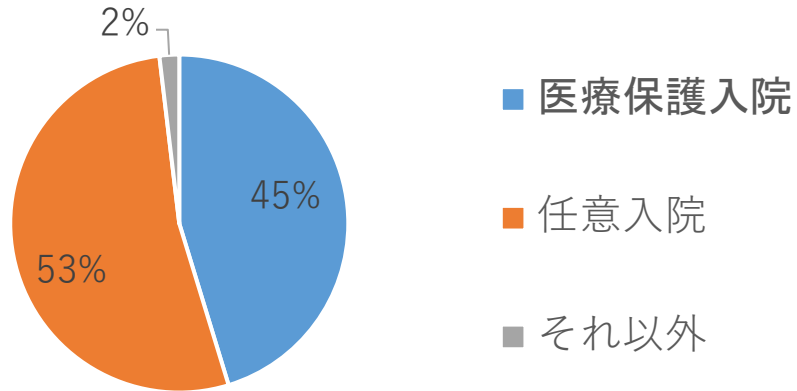
- ・ 70歳以上が約半数を占め、高齡化の傾向が顕著。
- ・ 50歳以上で全体の約95%を占める。

病名

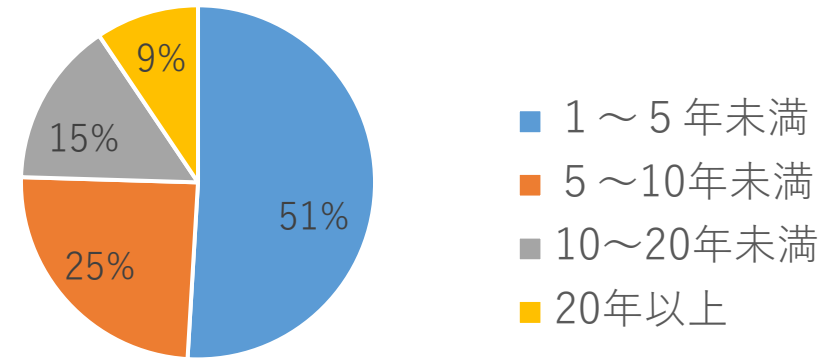
- ・ 統合失調症が約2/3を占め、次いで認知症が多い。
- ・ この2疾患で全体の8割以上を占める。

現在の入院状況と期間

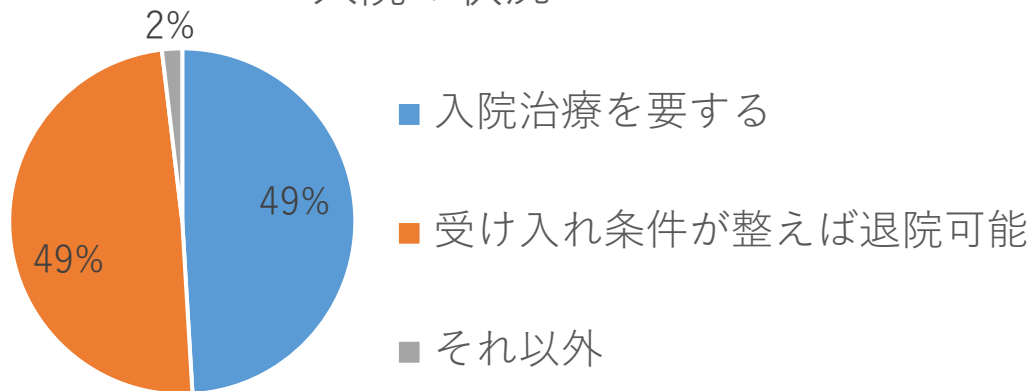
現在の入院形態



在院期間



入院の状況



在院期間

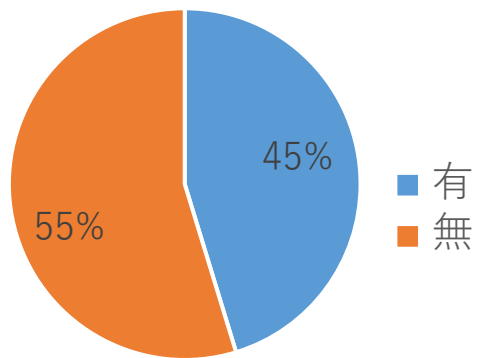
- ・半数以上が1～5年未満の期間。
- ・10年以上の入院者は約25%。

入院の状況（病院による判断）

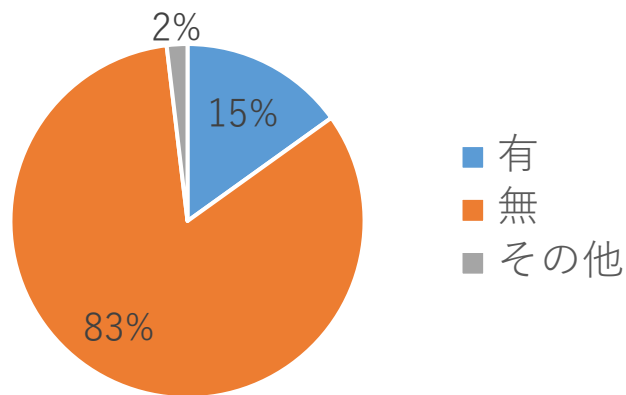
「入院治療を要する」と「受け入れ条件が整えば退院可能」がほぼ半数ずつ。

退院に向けた見通しと課題

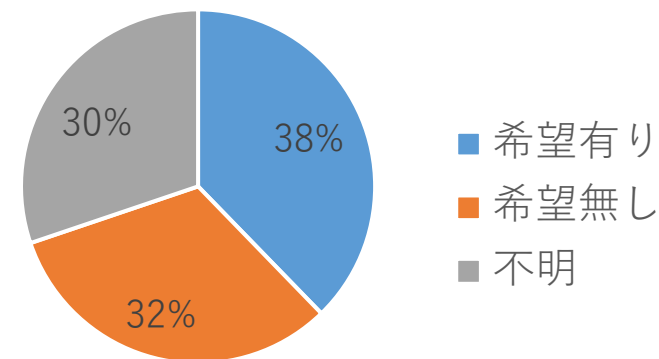
病院から見た退院の見通し



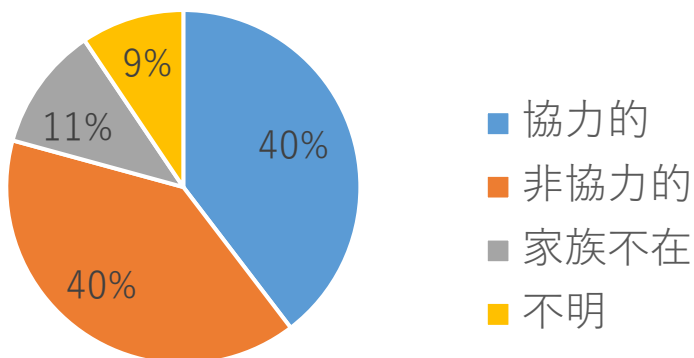
退院を想定した場合の帰宅先



退院に向けた本人の意思



退院に対する家族の意向



病院から見た退院の見通し

病院からは半数以上（54.7%）が見通しなしと回答。

退院を想定した場合の帰宅先

約8割が退院後の帰宅先がないと回答。退院への大きな障壁。

退院に向けた本人の意思

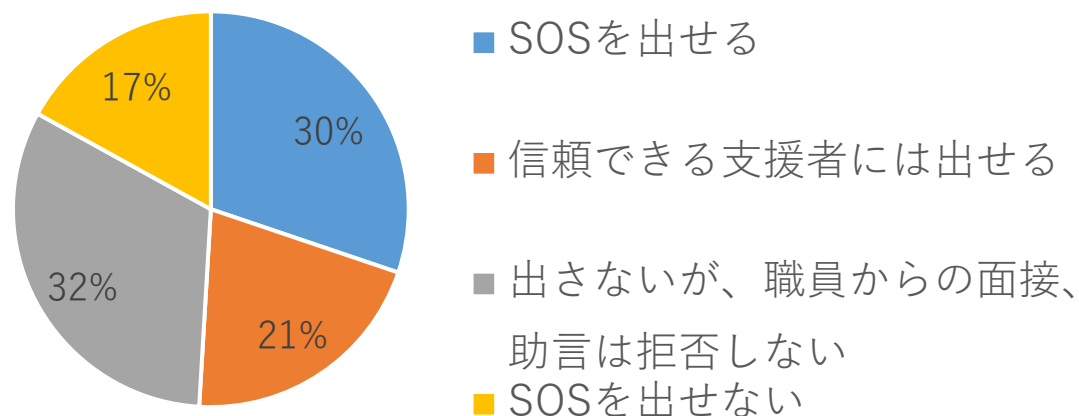
本人に退院希望があるのは約4割。希望なし・不明も3割程度存在。

退院に対する家族の意向

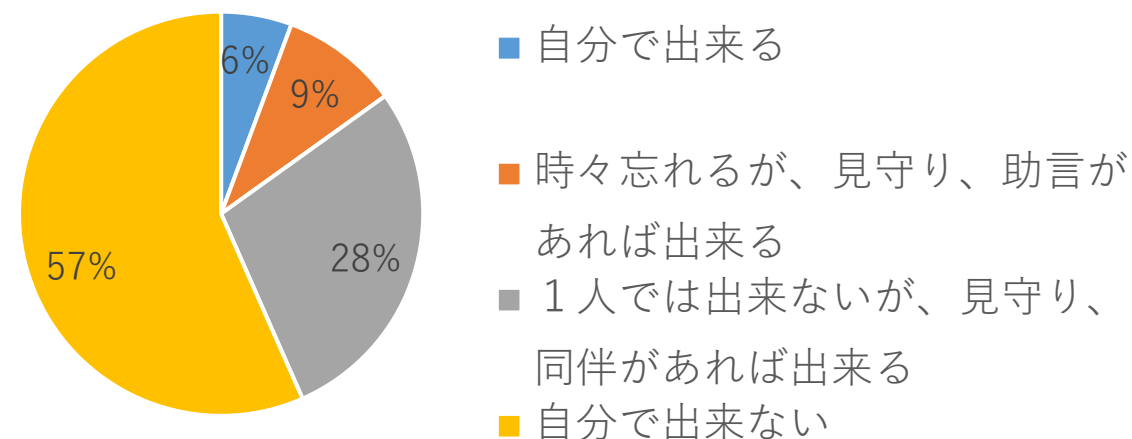
家族の意向は協力的と非協力的が拮抗。家族不在や不明も約2割。

退院後の生活能力

本人の状況：SOSが出せる



本人の状況：服薬、通院が出来るか



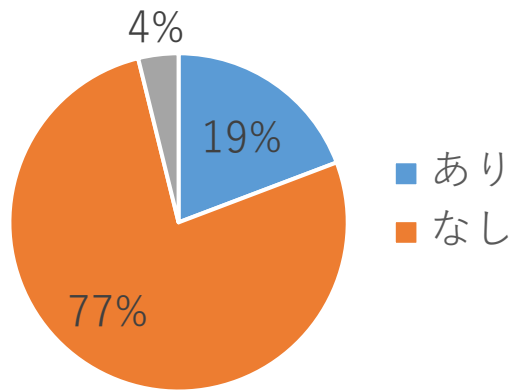
本人の状況：SOSが出せるか
自身でSOSを出せる人は約3割。

本人の状況：服薬、通院が出来るか
自身で服薬・通院が可能な人は非常に少ない。
半数以上が特別な見守りや介助が必須。

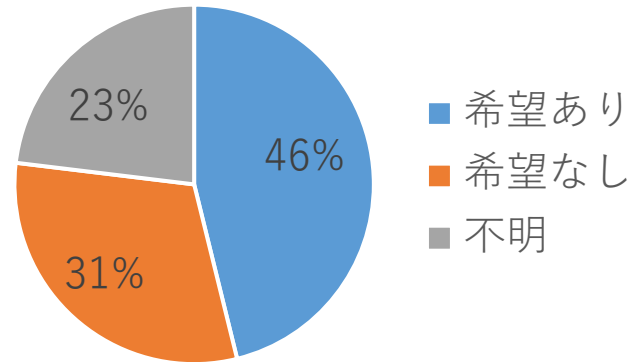
受け入れ体制の整備により退院が見込まれる層の分析

【入院状況】の質問から、「受け入れ条件が整えば退院可能」と回答した方（26名）の現状分析

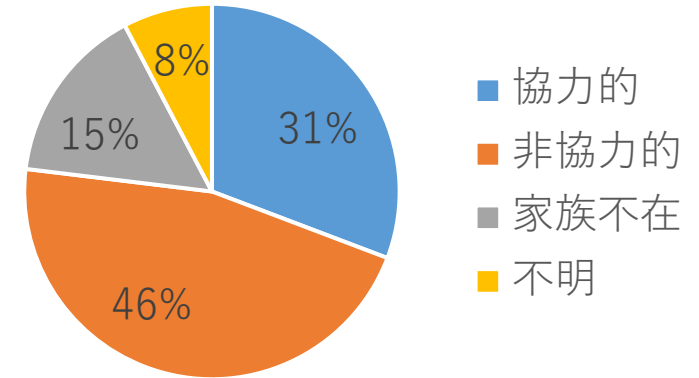
退院を想定した場合の帰宅先



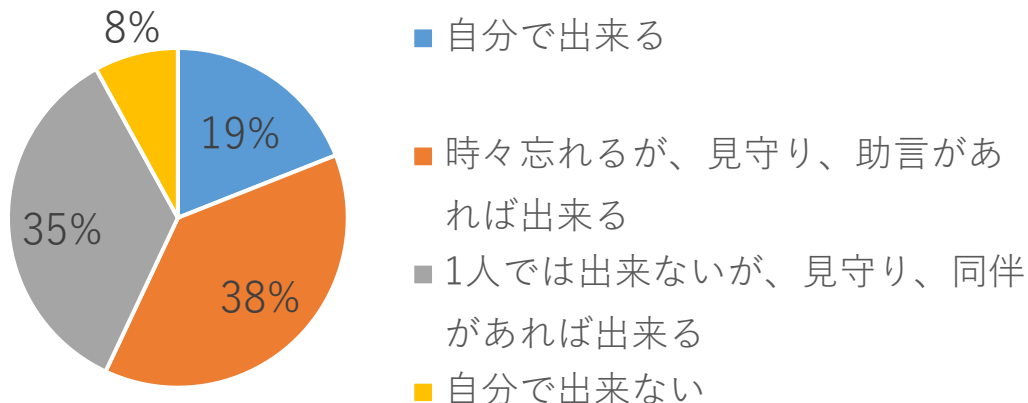
退院に向けた本人の意思



退院に関する家族の意向



服薬、通院が出来る



退院を想定した場合の帰宅先

帰宅先がない人が8割程度存在。

退院に向けた本人の意思

希望ありが半数、希望なし・不明が半数

退院に関する家族の意向

非協力的が46%

本人の状況：服薬、通院が出来るか

自身で服薬・通院が可能な人は非常に少ない。

調査結果まとめ・考察

- **長期入院者53名**は高齢化（**70歳以上が約半数**）が進み、**統合失調症が約2/3**を占める。
- **約8割が帰宅先を持たず**、本人の退院希望は不明・希望なしも多く、**協力的な家族は4割**にとどまる。
- **服薬・通院に課題がある人がほとんど**であり、退院後も治療継続できる枠組みが必要。
- 対象者のうち、約半数が「受け入れ条件が整えば退院可能」と評価されているが、そのうちの**約8割が帰宅先がない**状況。また、家族の意向として、半数程度が**退院に非協力的**。